

日本言語技術教育学会 事務局通信 第48号

2018年12月20日 (木)

第28回静岡大会役員

事務局長	開田晃央
事務局長代理	高木輝夫・安暁彦
事務局次長	高木輝夫
会計	斉藤美智子・中村麻里那
書記	飯村真由美・坂本要
事務局	高橋勲・京野真樹・鈴木友梨香
大会実行委員長	中村孝一
大会事務局長	篠原京子

師走の候、学会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

去る2018年6月30日(土)に、静岡県・常葉大学において日本言語技術教育学会第28回大会(静岡大会)が開催されました。「言語技術が見える授業づくり—新学習指導要領をふまえて4つの領域で身につけさせる言語技術—「新商品のよさを伝えよう(書く)」、「リクエスト給食のメニューを決めよう(話す・聞く)」、説明文「未来に生かす自然のエネルギー」、文学「海のいのち」の四つの模擬授業、午後の部では「提案授業の検討」が行われました。145名の参加者を迎え、熱心な討議が行われました。

一昨年度から本学会のホームページを大幅にリニューアルしました。

本学会のホームページのアドレスは次のとおりです。ご活用ください。

<http://nggkg.net/>

ここでは次回29回大会(東京大会)案内などを「事務局通信」としてお送りいたします。

1. 大内善一会長からのメッセージ

日本言語技術教育学会・会員の皆様

日本言語技術教育学会会長・大内善一

第28回静岡大会も皆様のご参加により盛会のうちに開催することが出来ました。

静岡大会のアンケートへのご協力を頂きありがとうございました。

ご参加下さった皆様には心から感謝申し上げます。

本学会の会長の任期は1期3大会年度となっております。私は会長をお引き受けする際に1期だけのお約束で就任させて頂きました。今般の静岡大会で会長の任期が終了となります。そこで、今般開催された理事会において新会長の選出が行われました。新会長には、北海道の柳谷直明氏の就任が決定されました。正式には、来年度の第29回東京大会から新会長の柳谷氏の下で大会が開催されることとなります。新事務局も北海道へ移されて運営されていくこととなります。この「事務局通信」も次号からは新事務局からの発行となります。

私の会長任期中は、一方ならぬ御支援を頂戴し衷心より厚く御礼を申し上げます。

新会長の下での本学会の今後の発展をお祈り致しております。

教師の授業技術は永続的に伸展していくべきものです。そのために、私たちは自らの授業技術に絶えざる検討・修正を行っていかねばなりません。様々な方法・技術の中から学習者の実態と場に応じて適切な方法・技術を選択し駆使していくべきであります。

したがって、言語技術教育は授業上達論を射程に収めていかねばなりません。

言語技術教育とは、教育のあらゆる場面と状況に応じて、教師と学習者が臨機応変で自在な言葉遣いが出来るようにしていくことです。端的に言えば、教師と学習者の言葉遣いの精度を高めていくことです。言語技術教育は、国語教育はもとよりあらゆる授業の向上発展に寄与していくことを目指しております。

2. 28回静岡大会の日程

8:30 受付開始

8:50 開場・諸連絡

全体司会

開田晃央(事務局長)

9:00 開会の挨拶

大内善一(学会会長)

第一部 授業公開 児童 常葉大学附属橘小学校

授業Ⅰ「リクエスト給食のメニューを決めよう」(話す・聞く・4年)

9:15 ～ 9:45(30分)

小川智勢子(埼玉・吹上小学校)

授業Ⅱ「新商品のよさを伝えよう」(書く・4年)

9:50 ～10:20(30分)

中村麻里那(茨城・茨城大学附属中学校)

授業Ⅲ 説明文「未来に生かす自然のエネルギー」(東書6年)

10:30 ～11:00(30分)

白石 範孝(明星大学)

授業Ⅳ 文学「海のいのち」(光村・東書6年)

11:05 ～11:35(30分)

京野 真樹(明星大学)

11:35 諸連絡(昼食場所・総会案内等)・昼休み(多目的室), 理事会(1407 教室)

12:40 学会総会(体育館) (委員会, 会計報告, 予算案の審議等)

第二部 提案授業の検討

検討Ⅰ「話す・聞く」 13:00～13:40(40分)

司会 今井 東(群馬大学附属小学校) 授業者 小川千勢子(東京・吹上小学校)

登壇者 佐藤 康子(青森明の星短期大学) 富樫 忠浩(北海道・早来小学校)

増田 泉(東京・砧南小学校)

検討Ⅱ「書く」 13:50～14:30(40分)

司会 柳谷 直明(北海道・中央小学校) 授業者 中村麻里那(茨城・茨城大学附属中学校)

登壇者 大内 善一(茨城大学名誉教授) 篠原 京子(常葉大学)

長谷川祥子(青山学院大学)

検討Ⅲ説明文 14:40～15:20(40分)

司会 中村 孝一(常葉大学) 授業者 白石 範孝(明星大学)

登壇者 光野公司郎(共栄大学) 高木 輝夫(茨城・中村小学校)

照井 孝司(せせらぎ国語教室)

検討Ⅳ文学 15:30～16:10(40分)

司会 大内 善一(茨城大学名誉教授) 授業者 京野 真樹(秋田)

登壇者 國府田祐子(松本大学) 鶴田 清司(都留文科大学)

望月 善次(岩手大学名誉教授)

16:15 閉会の挨拶

中村 孝一(学会副会長)

16:20 諸連絡, 懇親会案内他

16:40～18:00 懇親会(2号館3階 学生ホール)

3. 第28回総会

大会の中で総会がありました。そこでご承認された決算と予算を掲載します。

日本言語技術教育学会

2018年度 決算報告

2017年7月29日(土)

日本言語技術教育学会事務局長 開田晃央
(学会会計 齊藤美智子・中村麻里那)

「2017年度」は第26回大会当日の2016年8月5日から2017年7月29日までです。今回の決算には第26回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第27回大会の参加費、経費等は除いてあります。第27回大会参加費、経費等は来年度の決算で報告致します。

I 収入	計	2,086,487円
(1) 前年度よりの繰越金		1,305,987円
(2) 第26回東京大会参加費		746,000円
4000円(当日会員参加費) × 59人 = 236,000円		
4500円(当日非会員参加費) × 64人 = 288,000円		
2000円(学生参加費) × 15人 = 30,000円		
4000円(懇親会費) × 48人 = 192,000円		
(3) 新規会員学会費		30,000円
3000円 × 10人 = 30,000円		
(4) 『言語技術教育』24号・25号・26号頒布代		4,500円
500円 × 9冊 = 4,500円		
II 支出	計	587,338円
(1) 第26回東京大会経費		481,683円
①大会運営費		165,879円
②懇親会費		171,000円
③『言語技術教育』第26号印刷代		144,804円
(2) 教科書著作権料		3,888円
(3) 文具代・コピー代等		14,254円
(4) 通信費(宅急便代・葉書代等)		1,244円
(5) 会議費(含、9/3理事会運営費用)		46,269円
III 繰越金	計	1,499,149円

収入計:2,086,487円－支出計:587,338円＝1,499,149円

以上

2019年度 予算案

2017年7月29日(土)
 日本語技術教育学会事務局長 開田晃央
 (学会会計 齊藤美智子・中村麻里那)

「2018年度」は本日第27回大会当日の2017年7月29日から来年度第28回大会の前日までです。今回の予算には第27回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第28回大会の参加費、経費等は除いてあります。第28回大会参加費、経費等は来年度の予算に組み入れます。

I 収入	計	2, 374, 149円
(1) 前年度よりの繰越金		1, 499, 149円
(2) 第27回大会参加費(見込み)		845, 000円
4000円(当日会員参加費)	× 50人 =	200,000円
4000円(当日非会員事前申込参加費)	× 50人 =	200,000円
4500円(当日非会員参加費)	× 50人 =	225,000円
2000円(学生参加費)	× 20人 =	40,000円
4500円(懇親会費)	× 40人 =	180,000円
(3) 新規会員学会費		30, 000円
3000円 × 10人 =		30,000円

II 支出	計	2, 374, 149円
(1) 第27回大会経費		600, 000円
(2) 文具代		50, 000円
(3) 通信費(理事会・事務局通信、その他)		130, 000円
(4) 会議費(理事会、事務局会議等)		200, 000円
(5) 諸雑費(印刷費、アルバイト代等)		130, 000円
(6) 予備費		1, 264, 149円

以上

Ⅱ 『言語技術教育』 第28号

第28回大会に合わせて『言語技術教育』第28号を冊子として作成しました。その目次を紹介します。ご覧になりたい方は、第29回大会（東京大会）にて販売いたします。（500円の予定）

はじめに

大内 善一

【特集1】 わたしが主張する「言語技術教育論」

- ◆言語技術を駆使する〈場〉の工夫 大内 善一
- ◆「見える学力、使える技術」という指標
- 一言葉に関する知識の安定的行為化の授業を一 野口 芳宏
- ◆再度「言語技術」の「学」的定位置を切望する
- 大会の検討・文学的教材「海の命（「海のいのち」）」の四論点にも触れながら～ 望月 善次
- ◆メタ認知的知識としての学習用語—言語技術の真の習得・活用を図るために— 鶴田 清司
- ◆言語技術教育としての野口芳宏の指導理論～文学教材の鑑賞～ 柳谷 直明
- ◆国語科における「見方・考え方」と言語技術
- ～つながりを意識した説明文の読みを例に～ 中村 孝一
- ◆発問・指示の機能の確認と組み立て方の技術の共有を 岩下 修
- ◆国語科の指導技術の中核となるのが言語技術である 増田 泉

「授業Ⅰ 話す・聞く」と提案

題材「リクエスト給食のメニューを決めよう」

- ◆話し合いの練習をしよう（指導案） 小川智勢子
 - ◆シナリオ教材で全員に「話す・聞く」力を育てる（提案）
- 同

「授業Ⅰ 話す・聞く」を私はこう授業する

- ◆教え、覚えさせ、つかわせてこそその言語技術 佐藤 康子
- ◆言語技術は、練習して鍛えることができる 高橋 秀一
- ◆良質な「モデル教材」を用いて話し合いの仕方を身に付けさせる 今井 東
- ◆必然性のある横断的な視点での指導計画・授業で言語技術を向上させる 渥美 清
- 孝
- ◆汎用的「学習用語」の活用が資質・能力を育てる 富樫 忠浩
- ◆新学習指導要領に対応する国語科「学習用語」指導 富樫いずみ
- ◆力が付く「話す・聞く」の教材の開発を期待する 西山 悦子
- ◆「リクエスト給食のメニューを決めよう」 比佐 中
- ◆すべての児童が発表できるように 渡辺真由美
- ◆目的意識をもち、論理的思考力を働かせ、育みながら話し合う活動を 徳山 大
- 輔
- ◆話し合い（聞く・話す）に結び付く言語技術は何か？ 渡邊 靖之
- ◆目的と聞き手を意識した話し方を身に付ける指導 坂部 貴之

「授業Ⅱ 作文」と提案

題材「新商品のよさを伝えよう」

◆対比的な思考を陶冶する作文指導(指導案)

◆対比的な思考を陶冶する作文指導(提案)

中村麻里那

同

「授業Ⅱ 作文」を私はこう授業する

- ◆基本を繰り返し指導し、論理的記述力を高める
- ◆「書くこと」のテーマは学級の共有経験がよい
- ◆理性と感性、両方に訴える作文技術
- ◆私はこう授業する
- ◆「書くこと」の言語技術教育～考えの形成・深化～
- ◆分かりやすく伝えるために
- ◆「授業Ⅱ 作文」の授業に関する提案
- ◆「モデル」と「ルーブリック」の提示
- ◆「書く」ことの指導で論理的文章の書き方を学ばせる
- ◆文章の全体像を捉えさせる作文指導
- ◆マスターカードを活用した多作、楽作、基礎基本の作文指導

篠原 京子
長谷川祥子
高橋 勲
開田 晃央
飯村真由美
斉藤美智子
太田 等
藤 伸彦
大木真智子
山下 亘
千葉 勝志

兵

「授業Ⅲ 説明文」と提案

教材「未来に生かす自然のエネルギー」

- ◆論理的に「考える」思考活動のための言語技術「文章の特徴から要約する」
(指導案)
- ◆「問い」の解決を図るための言語技術(提案)

白石 範孝

同

「授業Ⅲ 説明文」を私はこう指導する

- ◆解釈に係る指導事項を部分として支える言語技術
- ◆言語技術を支える語彙指導
- ◆文相互の関係を捉える技術の重要性
- ◆文末の接続表現に着目する
- ◆説明文「未来に生かす自然のエネルギー」の学習指導
- ◆「時間には限りがある。」
- ◆国語科の授業づくりで大切にしたいこと
- ◆「汎用的なスキル」の育成を旨とした学習過程を構想する
- ◆「資質・能力」の育成と言語技術教育
- ◆論理的文章の読み書きに役立つ言語技術の習得
- ◆身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくり

光野公司郎
井上 善弘
照井 孝司
高木 輝夫
岩崎 淳
貫 眞弘
坂本 要
吉川 和良
有田 弘樹
西山 明人
室賀 美紀

大

「授業Ⅳ 文学」と提案

教材「海のいのち」

- ◆「海のいのち」で身につけさせる言語技術(指導案)
- ◆比喩の意味や働きを捉えるための言語活動を(提案)

京野 真樹

同

「授業Ⅳ 説明文」を私はこう指導する

- ◆資質・能力育成と向き合い、テキスト形式をいかす授業を期待する
- ◆明確な発問によって描写を発見させる
- ◆降り積もる「時」、深まり募っていく想いを言語化しよう
- ◆「描写音読、場面題名、人物像の変化」の発問例10題
- ◆比喩を読み解き、別の表現に書き換える
- ◆語彙への着目から太一への考えに迫る授業の提案
- ◆文学教材は六つの言語技術の指導を中心に
- ◆言語技術を見せる授業づくり
- ◆「伏線」を読み解く授業を
- ◆書きながら自問自答し、意味付けて読む授業を

佐藤 洋一
國府田祐子
渡邊 洋子
瀧沢 葉子
遠藤 直美
安 暁彦
岩井 信康
川又 智子
大淵 康孝
平河 力

- ◆文学作品の楽しみ方, 読み方を教える
- ◆「海の命」で深く人間的な学びを創る

田邊 泰
加藤 洋佑

第 27 回大会の報告

- ◆第 27 回大会(愛知大会)の概要報告

安 暁彦

弔辞 追悼・市毛勝雄先生

会長 大内 善一

編集後記

開田 晃央

※第 1 号～第 2 1 号は明治図書から刊行されております。そちらもお読みください。

- 『言語技術教育 第 1 号』特集 言語技術教育でどんな力がつくか (1580円)
- 『言語技術教育 第 2 号』特集 言語技術教育の観点から新教科書を点検する (1794円)
- 『言語技術教育 第 3 号』特集 言語技術教育としての『話し方・聞き方』指導を構想する (1794円)
- 『言語技術教育 第 4 号』特集 この文学教材でこの言語技術を教える (2314円)
- 『言語技術教育 第 5 号』特集 説明的文章を使ってどんな言語技術教育を身につけさせるか (1682円)
- 『言語技術教育 第 6 号』特集 論理的思考力を鍛える作文技術 (1995円)
- 『言語技術教育 第 7 号』特集 討論の授業がどんな言語技術教育を身につけさせるか (1890円)
- 『言語技術教育 第 8 号』特集 音声言語指導の教材開発・授業開発 (2058円)
- 『言語技術教育 第 9 号』特集 総合的学習を支える言語技術とは何か (2205円)
- 『言語技術教育 第 10 号』特集 総合的学習と「読み・書き」の技術 (2058円)
- 『言語技術教育 第 11 号』特集 到達度・絶対評価の基準としての言語技術 (1953円)
- 『言語技術教育 第 12 号』特集 「絶対評価」で問われる基礎学力と結果責任 (1995円)
- 『言語技術教育 第 13 号』特集 二十一世紀に求められる言語技術とは何か(1760円)
- 『言語技術教育 第 14 号』特集 「この言語技術」を「この授業」で身につける(1890円)
- 『言語技術教育 第 15 号』特集 「読解力の低下」問題と国語科授業の改革(1953円)
- 『言語技術教育 第 16 号』特集 国語学力を育てる言語技術教育(1953円)
- 『言語技術教育 第 17 号』特集 論理的な「言語力」を育てる国語科の授業(1953円)
- 『言語技術教育 第 18 号』特集 「伝統的な言語文化」を活かす言語技術(1680円)
- 『言語技術教育 第 19 号』特集 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは(1890円)
- 『言語技術教育 第 20 号』特集 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる(1953円)
- 『言語技術教育 第 21 号』特集 新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか(1890円)
- 『言語技術教育 第 22 号』特集 単元を貫く言語技術を解明する (1890円)
- 『言語技術教育 第 23 号』特集 言語技術が見える授業づくり
—学力向上に役立つ言語技術— (500円)
- 『言語技術教育 第 24 号』特集 「文学教材の授業で身につけさせる言語技術」とは何か
—「ごんぎつね」を例に— (500円)
- 『言語技術教育 第 25 号』特集 言語技術が見える授業づくり—「大造じいさんとがん」

「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐるー」で身につけさせる
言語技術ー（500円）

『言語技術教育 第26号』特集 言語技術が見える授業づくりー「ごんぎつね」「天気を予想する」で身につけさせる言語技術ー（500円）

『言語技術教育 第27号』特集 言語技術が見える授業づくりー「スイミー」「すがたをかえる大豆」「短歌」で身につけさせる言語技術ー（500円）

『言語技術教育 第28号』特集 言語技術が見える授業づくりー「リクエスト給食のメニューを決めよう（話す・聞く）」、「新商品のよさを伝えよう（書く）」、説明文「未来に生かす自然のエネルギー」、文学「海のいのち」で身につけさせる言語技術ー（500円）

Ⅲ 日本言語技術教育学会 第29回大会（東京大会）について

開催日時：2019年7月20日（土） 10：00～16：30

開催場所：青山学院大学青山キャンパス（東京都渋谷区渋谷4-4-25）

1 参加申し込み方法、懇親会など

(1) 第29回大会（東京大会）では【事前の参加申込】は致しません。当日、受付にて下記の参加費をお支払い下さい

会員4,000円、非会員4,500円、学生2,000円。 懇親会4,000円。

(2) 葉書として送付した「会員証」を、学会当日にお持ちいただき、受付でご提出ください。

受付では氏名・住所・会員か否か等の記載・確認をいたします。

(3) 座席は先着順です。受付で案内します。必ず受付を通ってください

(4) お問い合わせは学会事務局長（冨樫 忠浩）まで（下記メールのみ）。

E-mail tada-nowhere@angel.ocn.ne.jp

Ⅳ 理事会の日程

・日 時 2019年7月20日（土） 11：30～13：00（学会当日）

・場 所 青山学院大学青山キャンパス内（場所未定）

※ ご欠席される理事の方は、議事の審議・承認について議長にご一任いただきますよう、よろしくお願いたします。

Ⅴ 新規会員の申し込みについて

現在の日本言語技術教育学会員数は、630名程度となっております。本学会の特色は、研究者も現場の教員も社会人も、皆が同じ土俵に立って自由に意見を交換できることにあります。また、常に社会の要請をいち早く察知し、今日的なテーマ設定および提案をしております。

このような本学会に、ぜひまわりの方々を会員にお誘いください。

入会は、下記の口座に3,000円を振り込んでいただければすべて完了します。

年会費制ではないので、一回振り込むだけです。（電信振込はお避けください。）

事務局変更に伴い、「銀行及び口座番号」が新しくなりました。お気を付けください。

「筑波銀行見和支店」 店番号104

口座番号： 1035206

※ 学会会場の受付でも入会手続きが可能です。

VI 学会ホームページ

学会のホームページは以下のとおりです。ご活用ください。

日本語技術教育学会ホームページ
<http://nggkg.net/>